

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 775 号 令和7年12月

目次

○お知らせ 第41回世界獣医師会大会について	1
○令和7年度全国獣医師会会长会議並びに2025年動物感謝デーin JAPAN(ご報告)（会長理事）	1
○令和7年度獣医公衆衛生講習会開催報告（獣医公衆衛生部会 殿河内英雄部会長）	6
○令和7年度産業動物講習会開催報告（産業動物部会 原田 恒部会長）	7
○令和7年度岩柳支部研修会報告（岩柳支部 大黒屋有美先生）	8
○令和7年度第1回支部長会議開催報告（常務理事）	9
○令和7年度第3回理事会開催報告（常務理事）	10
○リレー随筆「第16回全日本ホルスタイン共進会に参加しました」（豊浦支部 白尾大司先生）	11
○ワシントンD.C.に行ってきました2025夏（徳山支部 白永伸行先生）	12
○ポケットモンスターACCUM（山口支部 鹿島貴朗先生）	16
○事務局だより	16

お知らせ

第41回世界獣医師会大会について

「第41回世界獣医師会大会」については、令和8年4月21日(火)～24日(金)の4日間、東京国際フォーラムにおいて「第43回日本獣医師会獣医学術学会年次大会（令和7年度）」と合同開催することで、日本獣医師会が準備を進めています。

今般、日本獣医師会から、地方獣医師会を窓口として10名単位で参加登録をする場合の団体割引制度（50%の割引）の紹介がありました。

年度始めの狂犬病予防集合注射実施期間中の多忙な時期に開催されますが、参加を予定又は検討しておられる会員は、令和7年12月17日(水)までに本会事務局に連絡してくださるようお願いします。

本県からの参加希望者が10名になれば、団体割引の手続きを行いたいと思います。

《会員獣医師チケット価格》

超早割価格（2026年1月末）：52,800円 → 団体割引後：26,400円

令和7年度全国獣医師会会长会議並びに2025年動物感謝デー in JAPAN(ご報告)

会長理事 中 村 滋

(公社)日本獣医師会（以下、「日獣」と記す）が主催で開催した、11月14日の東京都の明治記念館での会議、15日の上野恩賜公園での行事に参加したので、下記にその概要を報告する。

【会長会議】

I. 開会 駒田事務局長の進行で開会

II. 会長挨拶 蔵内勇夫会長挨拶

- 会員の出席、平素からの会運営への理解・協力に対する謝意。
- 6月25日の第82回通常総会で会長に再任され、執行部は新体制となった。
- 副会長を長きにわたり務められた砂原和文顧問、

理事として関係職域の課題に取り組まれた加地祥文（公衆衛生）・横尾彰（家畜共済）両先生に、本日、感謝状を贈呈する。

4. 8～10月開催の全国8地域での獣医学術地区大会に、日獣は会長・副会長・専務・顧問が分担して出席し、都道府県獣医師会(以下、「地方会」と記す)や構成会員と有意義な意見交換ができた。

5. 来年4月21～24日に東京国際フォーラムで第41回世界獣医師大会を開催する。7月にワシントンで開催された第40回大会で、東京大会の開催を周知した。閉会式には、小池百合子東京都知事も出席され、「大会誘致の実現と、人と動物が調和して共生できる世界の実現に向けての取組を推進する」との力強い挨拶を頂いた。

国境を越えたワンヘルス実践の推進が図られるよう特段のご支援ご協力を願う。なお、東京大会は多くの方に満足頂けるよう、先進的・充実したプログラムを準備する。他に、登録料の团体割引を設定した。我が国獣医師の団結力で大会を盛り上げて欲しい。

6. 本日、全国都道府県議長会の会長として、地方の声を官邸に届けるという役割がある為、途中退席し官邸に出向く。なお、先般開催された、47都道府県議長会議で、ワンヘルスの推進、獣医師の処遇改善、産業動物獣医師の確保等について特別議決を頂いた。本日は官邸で、総理に直接お願いする機会。このような機会も活用し、日獣と地方会の課題解決に結びつけていきたい。

7. 動物感謝デーへの参加をお願いする。昨年同様、動物愛護週間の中央行事との同時開催となる。

III. 議長・副議長任命

会長会議の議長・副議長は、定款施行細則に、「全国会長会議に常設議長・副議長を設置し、地方会の中から会長が任命する」と規定されている。蔵内会長が、常設議長に神戸市獣医師会・中島克元会長、同副議長に福島県獣医師会・浦山良雄会長を任命。任期は令和9年の通常総会終了時まで。

IV. 議事（以下、全て説明・報告事項）

議長・副議長の就任挨拶の後、伏見啓二日獣専務理事が議事の説明を行う。

1. 令和7年度動物愛護週間中央事業及び2025動物感謝デーin JAPAN "World Veterinary Day"に関する件

上野恩賜公園で開催される日獣主催の「動物感

謝デー」を後援する7機関・団体、（特別を含む）協賛9社、協力の6機関、全国55の地方会、他30団体、17大学、イベント概要や特設コーナーの内容等の紹介。開会式の来賓は、財務・農林水産大臣他。

2. 狂犬病予防法に基づく自治体事務のDX化等に関する件（「犬の登録支援システム」について）

(1) 犬の登録手数料をオンライン支払ができる社会に向けて～住民・自治体のメリットとその根拠法令等の紹介。

①住民メリット～ア 利便性の向上(自宅支払いが可能)、イ 手書きの簡略化(紙の記入が不要でクレカ決済など可能)、ウ 心理的ハードルの軽減(多忙な人への対応)

②自治体メリット～ア 業務の効率化、イ 登録率の向上、ウ 収入源の確保

③実現の為の根拠法令等

ア 狂犬病予防法第23条～動物愛護管理法に基づく狂犬病予防法の特例に参加した自治体には犬の登録手数料を徴収しなくなった自治体が見られる。犬の登録費用は本来、犬の所有者がその実費を負担すべきもの。

イ デジタル社会形成基本法第14・15条～国・地方公共団体はデジタル化を進める責務を有する。ウ 令和6年度地方分権に関する提案への対応方針整理番号114号～MCの手続きの機会を活用して犬の登録料を徴収できるようにすることとされた。

エ 地方分権対応としての環境省・厚労省・デジ庁の対応方針～一部の自治体しか犬の登録・収納サイトを所有しておらず、多くの自治体は、「独自のサイトを構築」するか、「提供可能なサービスを選択」する必要がある。その検討において、日獣の「犬の登録支援システム」の選択・利用をお願いしたいという内容。（厚労省・環境省・デジ庁が8月21日に発出した事務連絡文書「狂犬病予防法に基づく犬の登録に係る手数料の収納サイトの利用等について」に、日獣の「犬の登録支援システム」が「情報連携機能」「登録頭数に応じた手数料制」「導入費用ゼロ」などの特徴をもつ民間システムとして紹介された。）

(2) 「犬の登録支援システム」の特徴

①犬の所在地の自治体で支払いが可能

- ②MC情報が利用可能なため再入力が不要
- ③即時に登録情報が取得でき、特例参加の有無
に關係なく利用可能
- ④自治体での新たなシステム整備等の費用が不
要
- ⑤TOP・完了画面などで自治体毎のカスタマイズ
が可能

(3) 犬の登録支援システム第2フェーズ開発計画の概要～後掲 (5) ②

(4) その他～自治体の現状に応じたシステムのメリット紹介、試算段階でのシステム利用料の考え方、ページデザインの見本、Q&A【一例：日獣システムは導入費用を掛けずに採用でき、費用としては登録頭数に応じた管理費（300円程度）がかかる等】、日獣から地方会・自治体あての8月発出のチラシ、文書等が紹介される。

(5) システムの開発進捗状況（会議日現在）

- ①第1フェーズ(MC登録時に犬の登録・登録料の支払いができるシステム)～開発を完了し、広報活動に取組み中（再掲）
- ②第2フェーズ（狂犬病予防注射接種情報の取りまとめをデジタル化し、注射の案内や、注射済の犬の情報入力をデジタル化するシステム）～令和8年3月の完成に向け開発途中。
- ③現時点では、「犬の登録システム」の導入を決定した自治体は無い。

3. AIPO登録事業等に関する件

日獣は、事務・事業、経費削減・改善の対応の一つに「AIPO新規登録停止」をあげて、令和6年4月から工程管理を開始している。AIPO 紙入力の内製化で、約1,200万円の委託費・通信費を削減済。また、同年9月の日獣理事会で、データベースを早期に統合し、AIPO事業での新規登録を停止する方針を決定。ただし、MC普及推進のための関係団体との合同組織としてのAIPO及び普及事業は残る。その後、既存登録データの統合協議等を経て、令和10年9月末日に法定登録とAIPO(既存登録)を統合、AIPOサーバーシステムの撤廃で、約600万円のランニングコストの削減を見込む。

- (1) AIPO登録事業およびシステムの取扱い
 - ①本年10月に、災害用バックアップサーバーを撤廃し、データは手動でバックアップ。
 - ②令和4年6月以降にMCを装着した人は、法定登

録が義務となっているのでシステムを廃止しても問題はなく、6月以前に装着した人も本人の申し出により、移行登録が可能（無料）。

(2) AIPO幹事会における新規事業の参画

①幹事会の構成は、日獣、日本動物愛護協会、日本愛玩動物協会、日本動物福祉協会の4団体。幹事会は、MCの登録の普及を通じて、飼い主に動物の適正使用を促し、家庭での動物飼育の魅力を向上させる活動を続けるための母体として存続する。

4. 世界獣医師大会（WVAC）の日本開催に関する件

(1) 大会の概要

開催日：2026年4月21～24日の4日間

場 所：東京都千代田区有楽町 東京国際フォーラム、参加者数：6,000人

(2) 大会テーマ

「ワンヘルスで世界の獣医療が示す未来」

(3) チケット価格

超早割価格の1次受付は12月25日までで、会員獣医師は10名で50%の団体割引。10名を超える19名までの端数人数分は超早割の対象外。20名超は端数を含め超早割りの対象。

5. 第43回日本獣医師学術学会年次大会(令和7年度)に関する件

(1) 開催日：2026年4月21～24日の4日間

（世界獣医師大会に合わせて開催）

(2) プログラム案（予定・調整中）

①地区学会長賞受賞講演 4月21日午後、（山口県からは、小動物でアミカペットクリニックの網本宏和先生が講演。プログラムの詳細アナウンスは早く12月）

②獣医学術賞表彰式 4月22日昼

6. 日本獣医師会雑誌の電子化に関する件

前記3のAIPO 登録事業同様、日獣の事務事業、経費削減・改善の対応の一つに、「日獣会雑誌の電子ジャーナル化」があり、令和6年10月以降、協議が進められ日獣雑誌やHPで周知が図られてきた。本年12月まで会員への周知期間。令和8年1月号（第79巻）から、日獣雑誌の電子ジャーナル化へ移行開始。令和15年度には年間約2,000万円の経費節減効果を見込む。

また、移行措置として、従前どおりの紙媒体での送付を希望される場合は当面無料で、将来的には

(令和11年以降を想定) 有料で継続送付される予定。

7. 農場管理認定獣医師認定試験に関する件

昨年度、第1回目の試験が仙台で開催されたが、第2回目は令和8年1月17日(土)に東京と福岡の2か所で実施する。

8. 特別委員会及び部会委員会に関する件

令和7・8年度のみだしの委員会の検討テーマ、委員等は以下のとおり。

(1) 特別委員会（3委員会）

①ワンヘルス推進委員会

検討テーマはワンヘルス活動の推進等3題。検討委員21名

②マイクロチップ普及推進検討委員会

検討テーマは狂犬病予防事業の一体的な運営体制の整備等。検討委員12名

③家庭動物飼育推進検討委員会

検討テーマは、犬の飼育頭数減少等に伴い動物による恩恵が失われるなか、動物全体の飼育向上対策について関係省庁・団体等との意見交換等に努め、解決策を模索する。

検討委員13名(本会白永副会長他)

(2) 職域別常設委員会（7委員会）

①獣医学術部会 学術・教育・研究委員会

検討テーマは、今後の年次大会・生涯研修の在り方等4題。検討委員14名(本会白永副会長他)

②産業動物臨床部会 産業動物・家畜共済委員会

検討テーマは、農場管理獣医師の定着に向けての組織対応等3題。検討委員15名

③小動物臨床部会 同委員会

検討テーマは、家庭動物の飼育推進に向けた獣医師及び獣医師会の役割等3題。検討委員13名

④家畜衛生部会・公衆衛生部会 同委員会

検討テーマは公務員獣医師の人材確保等2題。

検討委員14名

⑤動物福祉・愛護部会 同委員会

検討テーマは、人と動物の共生社会における獣医師の役割、災害時の獣医療提供等3題。検討委員14名

⑥職域総合部会 総務委員会

検討テーマは地方会における会員加入促進、会誌の電子ジャーナル化に伴う魅力ある誌面の確保等3題。検討委員10名

⑦職域総合部会 女性獣医師活躍推進委員会

検討テーマは女性獣医師の活躍推進に関する対応の1題。検討委員11名

【連絡事項】

1. 当面の主要会議等の開催計画に関する件

前述の明日の2025動物感謝デー、世界獣医師大会、第83回通常総会（令和8年6月22日）等の行事が紹介される。

2. 日本獣医師連盟の活動報告に関する件

日本獣医師連盟会計責任者の立場で、伏見啓二専務が説明。令和7年1月～11月の役員の出席行事と、12月予定の行事、翌年2月16日の日本獣医師連盟令和8年度通常総会の日程等が報告される。

また、参議院議員選で日本獣医師連盟が推薦した有村治子議員が自民党4役の一つである総務会長に就任されたことが報告された。

V. 特別感謝状授与

蔵内会長の挨拶に記した3名に対して、日獣会長特別感謝状が贈呈された。

VI. 所感等

この度の会長会議の議事は、説明・報告事項のみであったが、狂犬病予防法に基づく自治体事務のDX化等やAIPO登録事業等に関する件は、過年度からの経過等を含め記したことから、紙幅を割いたことをお詫びする。

世界獣医師大会については、初日に開催されるWVA総会で、蔵内会長が世界獣医師会長に正式に就任される。会員に満足いただける先進的且つ充実したプログラムを準備されたとのことから、チケット価格は高額であるものの超早割り価格も設定されており、多くの会員に参加の検討をお願いする。

また、本会は県獣医師会報をはじめ日獣の情報等も本会HPに掲載するなど電子化に取り組んできたが、日獣雑誌の電子化に関する件は、改めてご確認をお願いする。

結びに、本会議で説明された議事内容で、本県獣医師会活動における課題等については、改めて会員の皆様にご指導を仰ぐことをお願いし報告とする。

□2025年動物感謝デーin JAPAN

日獣主催の本行事は、動物愛護フェスティバル【令和7年度動物愛護週間中央行事(屋外行事)】との同時開催。

I. 開会式

1. 動物愛護中央行事実行委員長の田畠直樹(公財)日

本動物愛護協会理事長挨拶

日獣と4回目の同時開催であること、「人も動物も守る防災術」について述べられる。

2. 蔵内勇夫日獣会長挨拶（骨子）

- (1) 会場参集者、来賓に対する謝意。
- (2) 動物感謝デーは、世界獣医師会が提唱する「世界獣医師の日」活動の一環として開催するもの。獣医師が取り組む様々な仕事や人と動物が共生する豊かな社会の実現の為の取り組み等を国民に広くご紹介することを目的に、日獣が主催してきた。
- (3) 現在は、国が主催する「動物愛護週間中央行事」との合同開催となり、規模を大きくして開催。
- (4) 動物感謝祭のテーマは「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い」で、人と動物の共通感染症など人と動物の健康と環境を一体的に捉え解決するというワンヘルスの考え方と感謝祭のテーマは一致する。
- (5) 昨日、官邸で高市総理出席のもと「地方と国」との協議の場に出席し、ワンヘルスのお話をしたところ、とても関心を持っていただいた。
- (6) 来年4月、世界獣医師会会長に就任し、「ワンヘルスで世界の獣医療が示す未来」をテーマに世界獣医師大会を開催する。
- この大会では、一般の方が参加できるシンポジウムも企画しており、多くの方々の参加をお願いしたい。
- (7) 会場内・屋外で、様々な分野でワンヘルスの中心的な役割を果たす獣医師の仕事をご理解頂き、生活の中にワンヘルスを取り入れて頂きたい。
- (8) 協賛企業、関係省庁・団体への謝意。

3. 来賓挨拶・紹介

鈴木憲和農林水産大臣、森英介自民党獣医師問題議員連盟会長代行、自民党大家敏志参議院議員(福岡選挙区)、片山さつき財務大臣・ペット関連産業議員連会長の順に挨拶をいただいた後に、開会行事後援・協力の関係省庁担当者、協賛企業代表者、日本獣医学生協会代表者、国会議員秘書等が紹介され、開会式が終了。

4. 屋外ブースの概要～獣医師の仕事体験、クイズ、ゲーム、馬とのふれあい・写真撮影、獣医学生との交流、ペットと防災について考える、ペット資材の紹介などが出展される。

II. 屋外行事、所感等

各ブースとも家族連れ・ペット同行で賑わってい

たが、一日獣医師体験、子供たちと獣医学生との交流、ペットと防災の各コーナーへの訪問者が多いことが印象に残った。特に、防災コーナーでの九州地区獣医師連合会のVMATと来場者の会話が絶えない姿から、一般来場者の防災意識の高まりを感じた。



全国獣医会会長会議で挨拶される藏内会長



動物愛護フェスティバル会場の様子



挨拶される鈴木憲和農林水産大臣

令和7年度獣医公衆衛生講習会開催報告

獣医公衆衛生部会長 山口支部 殿河内 英 雄
(山口県動物愛護センター)

令和7年10月18日(土)、山口市のYMfg維新セミナーパークにおいて、令和7年度獣医公衆衛生講習会が開催されました。今年は、NPO法人ANAICE（アナイス）理事長の平井潤子先生をお招きし「災害時のペット対策～"飼い主力"と"防災力"をUPしよう！～」という演題で講演をいただきました。

平井先生は、2000年の三宅島噴火災害をきっかけに、NPO法人ANAICEを設立され、災害発生時には、国や自治体と連携した現地救援本部が実施する被災動物救護活動に従事するほか、被災地に赴き現地情報を収集、分析し、発信する活動に取り組んでおられます。また、長年にわたり東京都獣医師会の事務局長を務められ、2024年からは同会災害担当顧問に就任されています。

今回の講演では、まず、能登半島地震など、平井先生が被災地で実際に活動され、被災地におけるペットとの避難生活がどのようにであったかの説明がありました。

近年、ペットとの同行避難が強く推奨され、自治体が設置する避難所でも受け入れ体制の整備が進められつつありますが、避難所で飼い主とペットと一緒に生活できるとは限りません。過去の災害では、避難所まで同行避難したものの、鳴き声や臭いなどの問題でペットと一緒に生活できず、車中生活や被災した自宅での生活を選択した被災者の方もいたようです。能登半島地震の際にも、ペットと同室で生活できる避難所はあったようですが、必ずしもペット同室可として開設されたわけではなく、ルールが決まる前に同伴避難され、結果として追認された場所もあったとのことでした。また、ある自主避難所

において、ペットの飼い主同士が協力してペット用のスペースを作成し、他の避難者の了解を得るという取り組みも紹介されました。

このような事例を踏まえ、ペットの避難対策は、公助のみに頼るのではなく、自助や飼い主同士の共助が必要であるとお話しされました。ちなみに、環境省の調査（令和6年能登半島地震における被災動物対応記録集）によると、調査した避難所119か所のうち、同行避難があったのは56か所で、飼い主と同じ部屋で飼養されていた避難所は17か所だったようです。

講演後半は、自分と家族を守る「防災力」とペットを守る「飼い主力」について考えてみましょうという内容でした。フードや薬等備えておく「もの」と、しつけやワクチン等備えておく「こと」について説明されました。事前に迷子ポスターを作つておいては、という提案があり、私も早速作つてみました。

最後に、災害前や災害時に何が必要かを考え、工夫する力が「飼い主力」と「防災力」につながるのだということを伝えられ、講習会は終了しました。

市民公開講座として開催され、当日の参加者は合計70人で、会員のほかに39人の県民・学生の方にもお越しいただきました。自分も含め、つい先延ばしにしている備えを改めて実行する大変良い機会になったのではないかと思います。

当日、都獣医師会災害担当顧問として、台風による八丈島の被災対応もこなしながら、貴重なご講演をいただきました平井先生に改めて感謝の意を表します。



講師の平井潤子先生



会場の様子

令和7年度産業動物講習会開催報告

産業動物部会長 岩柳支部 原 田 恒

(柳井農林事務所畜産部)

令和7年11月8日(土)、山口グランドホテル(山口市)において、令和7年度産業動物講習会が開催されました。今年度は、中国地区産業動物講習会としての開催もあり、県内会員や山口共同獣医学部学生の他、県外からの参加者も併せて計49名が参加されました。

講師には株式会社益田大動物診療所 加藤圭介先生をお招きし、「ウシのクロストリジウム感染症戦略」とのテーマで、肥育牛の壊死性腸炎と乳牛の出血性腸症候群(HBS)についての診断、治療、予防法の取り組み等についてご講演いただきました。

肥育牛突然死の半数を占める腸炎は、クロストリジウムによる壊死性腸炎が多くを占めています。確定診断では、直腸便や腸管内容の細菌検査を定量培養で行い、*Clostridium. Perfringens*が基準値以上に存在することの確認が必要ですが、診療では、臨床所見の他、血液検査(白血球数やHCTの上昇が必須、クロストリジウムのエンテトキセミアに起因すると推察される低Ca高iP、高BUN)と超音波検査(肥厚した腸管壁、拡張したループ像)により壊死性腸炎と診断し治療に入るそうです。血液検査を積極的に行うこと、予防には、クロストリジウムワクチン接種(抗体価が低下しやすいため頻回接種が必要、特に肥育中期に追加)や、生菌製剤投与でルーメン状態を良好に保つことが必要とのことでした。

HBSは、成乳牛に多く罹患する致死性の高い疾患であり、出血性壊死性腸炎が小腸(特に空腸)で発生する疾病です。原因は*Clostridium. Perfringens*の増殖と產生される毒素であり、乳牛の高泌乳化への品種改良と、それに伴う配合飼料摂取量の増加が、本症増加に影響していると疑われています。肥育牛の壊死性腸炎との違いは、壊死性腸炎は症状が急性(甚急性)で天然孔からの出血が見られるのに対し、HBSは、腸管内で出血し血餅化するが、突然死は少ないとことです。これは、肥育牛では、でんぶんが多給されビタミンA欠乏状態にある肥育中～後期にクロ

ストリジウム菌が増殖しやすいのに対し、乳牛では、飼料でビタミン類やミネラルが豊富に給与される分、免疫力が高く、壊死性腸炎が亜急性型として発症するのではと考えている、とのことでした。

HBSは、初期症状での診断が難しい疾病であり、乳量が急激に減少し餌を全く食べない個体は、産歴(2産目が有意に多い)や分娩後日数(60～150日に集中して発生)などのデータを畜主に確認し、好発時期と合致するものは必ず本症を疑うこと、血液検査や血液生化学検査で、BUNの軽度上昇、軽度のCa低下(ダウナー症候群(3～4mg/ml)ほど下がらない)、C1の低下、WBCの軽度増加等の特徴的な所見を確認することが有用です。一方で、超音波検査では発症初期は診断困難とのことでした。HBSの初期は病気に見えないことがほとんどであり、疑う所見があった場合はすぐ治療に入ることが治療率を高めるとのことでした。ただし血液生化学検査は、早期に異常を発見した段階で直ちにデータを把握する必要があり、大動物では対応できる診療所が限られる点が難しいところです。

予防策としては、ルーメンアシドーシスや腸内有害菌の増殖による免疫能低下防止のための生菌製剤投与や、飼料中のカビ毒から生じるストレスによる免疫抑制が発症を誘引すると考えられており、カビ毒の吸着剤投与や飼料タンクの清掃を指導するとのことでした。

また、HBSの治療法は、血餅除去のため用手破碎や腸管切除・切開等の外科的治療が行われるが、再発率が高いため治療せずに廃用する例が多いことから、治療の選択肢として長年取り組んでいる内科治療でのアプローチについての紹介がありました。輸血療法、抗生剤・ステロイド投与に加え、現在は腸管内血餅の融解を目的とした消化酵素製剤投与を併用し、従来法と比較し高い治癒率を確認していること、また消化酵素製剤は、使用しても患畜に影響が少ないため、疑った時点ですぐ投与できる点も使いやすい

とのことでした。

先生のお話は、豊富な臨床例はもちろんですが、生菌製剤や消化酵素製剤の効果をin vitroでも確認す



講演される加藤圭介先生

る等、日々の診療で忙しい中でも科学的根拠を常に確認し改善を積み重ねる姿勢に大変刺激を受けました。今回の講習会が参加者の参考になれば幸いです。



会場の様子

令和7年度岩柳支部研修会報告

岩柳支部 大黒屋 有 美
(みさお動物病院)

令和7年10月26日(日)、岩国市の漬物製造業「うまもん」さんにおいて、令和7年度岩柳地区獣医師会の研修会が開催されました。

第一部は、参加者全員でぬか床作り体験を行いました。うまもんさん秘伝のレシピは意外とシンプルでしたが、「そんなものも入れるの！？」というモノもあり、非常に興味深かったです。実際に完成したぬか床を嗅がしていただくと、とても芳醇な香りがして、出来上がりが楽しみになりました。調理実習から何十年かぶりにエプロンと手袋を装着して、凄く真面目にぬか床をこねました。

第二部はうまもん工場の見学でした。うまもんの前身は300年続いた千歳醤油ということもあり、歴史

を感じさせる貴重な品々が残されていました。旧商家をあらわす内蔵には、NHKの新作朝ドラ「ブラッサム」で注目される、宇野千代さんとの関係の深さがわかる品々の展示もありました。広い工場内には7つの井戸が掘られており。岩国のおいしい食品やお酒は錦川の伏流水にささえられているのだなあと実感しました。

研修会終了後には懇親会として、和食の「よしだ新館」さんで岩国寿司や大平（おおひら）、さんばいなどの郷土料理とヤマメ塩焼きや鮎の甘露煮などをいただきました。満腹、大満足の研修会、懇親会を終え、ずっしりと重いぬか床を持って帰路につきました。



令和7年度第1回支部長会議開催報告

常務理事 酒井 理

令和7年10月30日(木)午後1時30分から、県獣医師会館において、令和7年度第1回支部長会議が開催されました。

中村 滋会長から平素からの会務運営への協力・支援に対する謝辞等の挨拶の後、次の3件の議題について協議していただきました。

議題1 令和7年度上半期の事業実施状況について

議題2 SFTS対策について

議題3 日本獣医師会雑誌の電子化について

議題1 では、年度前半の事業実施状況について報告しました。主な説明は次のとおり。

- ・9月末の会員数は、昨年度末から4名増えて、370名職域別では、小動物分野が146名、産業動物分野が108名、獣医公衆衛生分野が61名
- ・日本獣医師会会长表彰1名、中国地区獣医師会連合会会长表彰3名、本会会长表彰6名が受賞
- ・8月31日、YMfg維新セミナーパークにおいて、第61回山口県獣医学会が開催され、産業動物6題、小動物21題、獣医公衆衛生3題の発表
- ・10月11~12日、岡山市において、獣医学術中国地区学会が開催され、本県からの発表は、産業動物3題、小動物21題、獣医公衆衛生3題
- ・山口獣医学雑誌第52号の投稿論文を募集中
- ・産業動物講習会、獣医公衆衛生講習を各1回、小動物講習会を2回開催
- ・各地で開催される畜産共進会に地元の支部長に出席いただき、優秀者に獣医師会長賞を授与
- ・県の動物由来感染症に関する会議に、委員を派遣するとともに、動物病院において検査検体を確保
- ・動物病院でSFTSが疑われる犬猫の検体を山口大学共同獣医学部で検査し、今年度の陽性は5事例
- ・狂犬病予防注射は、近年、集合注射が減少する代わりに、個別注射が増加しており、今年度の集合注射は22,042頭実施
- ・狂犬病啓発ポスターの作成、ワクチンの確保等は

例年どおり実施し、ワクチン接種に伴う死亡犬等の原因調査が必要な事案はなかった

- ・狂犬病予防注射事故に備え、各種保険に加入
- ・協力獣医師により、「学校飼育動物の保健衛生指導」事業と「傷病鳥獣保護救護」事業を実施
- ・県の規程に基づき、県内での災害発生した際に、県が実施する動物救護対策を支援する（事例なし）
- ・災害発生に備え、「災害対策」をテーマとした講習会を2回（獣医公衆衛生・小動物）開催
- ・動物病院に関する動物医療相談（9件）に対応
- ・個体識別措置について啓発とともに、希望する動物病院に普及啓発用マイクロチップを配付
- ・自民党山口県連の政策聴問会において、「ワンヘルスの推進と公務員獣医師の待遇改善」について要望
- ・日本近代獣医学の開祖 時重初熊先生の墓碑掃苔供養を11月30日に実施予定

議題2 では、SFTSの最近の動向と本会の取組について報告しました。主な説明は次のとおり。

- ・国立健康危機管理研究機構の発表では、ヒトのSFTSは、全数把握対象の4類感染症で、これまで1,185例の患者が報告され、届出時点の死亡は126例・獣医療従事者の患者が12例で、うち1例は死亡
- ・動物のSFTSは、法令上の届出義務はないが、研究者のネットワーク調査では、2024年にネコ194匹、犬12頭のSFTSが報告されている
- ・ネコでの発生は、3月~5月に多く、致死率は62.5%
- ・マダニに吸血されないような対策に加え、SFTS発症の可能性がある動物に接触する際に、直接体液に触れないような対策を徹底することが重要
- ・本会では、山口大学と連携して、会員や県民向けの講習会を開催
- ・令和2年度から、山口大学と県の研究事業に協力して、動物病院でSFTSが疑われる犬猫の検査を実

- 施し、これまで猫28匹、犬2頭に陽性を確認
- ・国は、SFTSの動物由来検体の検査マニュアルを、感染症法第15条に基づく積極的疫学調査の一環として活用するよう各県に通知した
 - ・今後は、動物病院で疑われる犬猫を確認した際は、現在実施している山口大学での検査に加え、保健所に相談して県で検査する方法も可能となった
- 議題3**では、日本獣医師会雑誌の電子化に伴う取組について報告しました。主な説明は、次のとおり。
- ・日本獣医師会は、毎月発行している日本獣医師会雑誌を、令和8年1月から電子化することとし、地方獣医師会に所属会員のメールアドレスの取得

- を依頼した
- ・本会は、令和7年8月、各会員に通知し、メールアドレス2件と、紙媒体の雑誌の送付希望の有無について調査を行った
 - ・これまで、会員の約4割しか回答がなく、支部会員に調査への協力を呼びかけて欲しい
- その他**では、県が検討している「犬猫のミルクボランティア事業」、「第41回世界獣医師大会」について情報提供しました。
- 最後に、白永伸行副会長の挨拶で閉会となりました。

令和7年度第3回理事会開催報告

常務理事 酒井 理

回支部長会議における報告（今月号会報掲載）と同様ですので、説明は省略します。

第2号議案は、本年9月の災害時動物救護対策委員会（会報令和7年10月号掲載）で了承された「災害時動物救護実施要領」の一部改正について説明しました。

本年4月に下関市が定めた災害時動物救護に関する規程を、本会の要領に反映させるための改正案について、全会一致で承認されました。

第3号議案では、第2回理事会（6月8日開催）以降に入会届の提出があった一般会員1名及び賛助会員1名の入会について、全会一致で承認されました。

第4号議案では、「会員の休会に関する規程」に基づき、休会申請書の提出があった1名の休会について、全会一致で承認されました。

最後に、白永伸行副会長からの閉会挨拶により会を閉じました。

令和7年11月6日(木)午後1時30分から、県獣医師会館において、理事13名全員、監事3名中2名の出席により、令和7年度第3回理事会が開催されました。

中村 滋会長からの本会事業運営へ感謝等の挨拶の後、議事録署名人に会長と出席監事2名、書記及び議事録作成者に常務理事を指名され、次の5件の議案について審議していただきました。

第1号議案 令和7年度上半期の事業実施状況について（報告事項）

第2号議案 「山口県獣医師会災害時動物救護実施要領」の一部改正について
(承認事項)

第3号議案 新規加入会員について（承認事項）

第4号議案 会員の休会について（承認事項）

第5号議案 SFTS対策について（報告事項）

第6号議案 日本獣医師会雑誌の電子化について
(報告事項)

第1号議案、第5号議案及び第6号議案は、第1

リレー隨筆

第16回全日本ホルスタイン共進会に参加しました

山口県西部家畜保健衛生所の引田さんからバトンを受けました、NOSAI山口 西部地区家畜診療所の白尾と申します。

去る10/25、26北海道で開催された第16回全日本ホルスタイン共進会に参加しました。前回の引田さんからも紹介あったとおり、山口県から出品される2頭の牛の健康管理のために獣医師が帯同することとなり、往路は同診療所の近藤獣医師が、帰路を私が受け持つこととなりました。

行程としては、往路は山口県から3日間かけて青森県まで陸路、フェリーで1泊して北海道。2日馴致して本番。帰路は逆にフェリーで1泊して、青森から2日間で山口まで移動のスケジュールでした。

出品牛2頭のうち1頭は経産牛なので搾乳が必要で朝夕に搾乳をしつつの移動です。往路は出品前なので特に気を使ったようです。私の帯同した帰路はひたすら帰るだけとはいえ、1日短いので強行な日程でした。

北海道（苫小牧）～青森（八戸）間は人生初のフェリー泊で移動。船酔いは大丈夫でしたが、まあまあ揺られながら細い毛布にくるまり、翌朝5時には青森に到着。そこから岩手県に移動してサービスエリアで搾乳。あとは石川県までひたすら陸路移動です。

特にトラック運転手さんの働き方改革のおかげで、1日の運転時間制限がある中で目的地まで移動しないといけないこともあります。途中の休憩時間を切り詰めての移動となりました。

帰路1日目は青森から石川まで8つの県を886km、2日目は石川から山口まで7つの県を732km、おそらく今後の人生でもこんなに走ることはないんじゃないかと思われるような走行距離と運転時間を体感しました。寄り道ほぼなしなので、各地の観光や土産は無いのですが、なかなか貴重な体験でした。

運転していて気になったのは、高速道路にある道路標識「動物注意」の看板です。東北はやはり最近ニュースで話題のクマやシカが多く、中部地区はイノシシやサル、タヌキとなり、中国地方はシカ、タヌキでした。特にタヌキの看板のレパートリーが多く5種類くらいありました。あと、シカの標識はいつも角の向きが違うのが獣医師的に気になるところです。

さて、全ホル共は前回開催から10年ぶりの開催でしたが、特に前回と違うのは参加関係者27名でLINEグループがあったことではないでしょうか。直前まで細かな日程変更などの周知がされたり、各自が撮影した写真を全員で共有したりと、とても便利な時代になったなど実感しました。

豊浦支部 白尾 大司
(西部地区家畜診療所)

2年後には和牛の全国大会、5年後はまた全ホルがあります。次回はもっと若手の獣医師も参加して、牛業界をより盛り上げていってもらったらと思います。

ということで、次の投稿は当所の若手で、もつかイクメン中の市村 護 獣医師にお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。



出品直前、山口カラーオレンジ色の目立つ集団



朝の搾乳前の出品牛、餌欲しがっています



快晴のもと、しばし休憩の運搬車

ワシントンD.C.に行ってきました2025夏

徳山支部 白 永 伸 行
(シラナガ動物病院)

2025年夏、米国ワシントンD.C.において World Veterinary Association Congress (WVAC) と American Veterinary Medical Association Annual Convention (AVMA) が合同開催されました（来年の世界大会は4月に日本獣医師会年次大会との合同開催です）

私は今回、初めて米国の首都に滞在しましたので、その期間中に市内をいろいろ巡りました。会員のどなたかのご参考になればと思い、ご紹介いたします。

ホワイトハウス

当時、いわゆる「トランプ関税交渉」で日本側の赤澤大臣がホワイトハウスに入りしておらず、日本のマスコミもちらほら見かけました。私たちが見たホワイトハウスの“シルエット”は実は裏側であるとのことでした。また、日本でも国会議事堂前や辺野古埋立地などにデモ隊のテントが常駐していますが、ホワイトハウス前にも同様のテントがあり、ホストの説明では「ベトナム戦争以降から住み着いている」らしく、まさにヒッピーのような雰囲気でした。

ホワイトハウスは何重もの鉄柵が並べられ、敷地内の柵はおよそ5mといわれています。高さが増したのは最近で、元海兵隊の男が鉄柵を乗り越えて侵入した事件を受け、ルールでは射殺に該当するところを警備が発砲しなかったため、トランプ大統領が柵を高くしたとの話でした。また、ホワイトハウスの屋上には常時ヒットマンが配置されており、事件以降2人から5人に増員されたと言われています。そのため「近辺で不審な動きは慎むように」とガイドから注意されました（あくまで噂のことですが）。

内部見学ツアーは休止中でしたが、ちょうど車が誘導を誤って進入禁止区域に迷い込んだ際には、けたたましいサイレンと警備、さらに獰猛そうなシェパード2匹が駆けつけていました。ホワイトハウス外のギフトショップではトランプ大統領のバブルヘッド人形が販売されており、なかには銃撃を受けた姿

の人形まであって、「さすが自由の国アメリカだな」と思い、思わず購入しました。



ホワイトハウス前の雰囲気

ナショナルズパーク

ちょうど運よくメジャーリーグの試合のチケットが手に入り、ワシントン・ナショナルズ対サンディエゴ・パドレスの試合を観戦することができました。パドレスの先発投手はダルビッシュ有でしたが、KOされ、ホームチームのナショナルズが勝利しました。パドレス側の内野席で、ホットドッグとポップコーンと巨大なビールと共に、トランペットや鳴物のない歓声だけの野球観戦（ヤジはすごいですが）は現地で見ると格別です。7回には「私を野球に連れて行って（Take Me Out to the Ball Game）」を敵味方関係なく大合唱しました。また観戦に来ていた米国陸軍関係者がイニングの間に紹介されるとスタンディングオベーションでした。国を守る関係者への敬意がすごく日本との差を感じました。



ナショナルズパーク3塁側内野席

戦争記念館

ガイドに「戦争記念館に行きたい」と伝えると、「どの戦争ですか?」と尋ねられました。日本人にとって“戦争”といえば第二次世界大戦ですが、アメリカでは派兵した複数の戦争が想起されるため、朝鮮戦争・ベトナム戦争も含まれます（中東関係は9.11との兼ね合いか、ワシントンにはありませんでした）。

第二次世界大戦記念碑は、太平洋戦争や欧州戦線の陥落都市や島の名前が地域順に刻まれ、勝利への道程を表す内容でした。一方、朝鮮戦争やベトナム戦争の戦没者慰靈碑は、過酷な戦場を象徴する兵士のモニュメントで構成され、勝利よりも“国のために命を捧げた兵士への鎮魂”が前面に出た展示でした。

ちょうど朝鮮戦争エリアで韓国軍高官による献花セレモニーが行われており、見学していたところ、どこにでもいる“ミリタリー系YouTuber”らしき人物が撮影していました。私も偶然映り込んでしまい、何か話しかけられたため避けたところ、「貴様は朝鮮戦争の戦没者に敬意がない!日本人だな?」と絡まれそうになりましたが、ガイドさんが助けてくれました。韓国のネットで拡散して馬鹿にされていかれていないことを祈るばかりです。



第二次世界大戦記念碑



朝鮮_ベトナム戦争の戦没者慰靈碑
「自由は無料ではない」

スパイミュージアム

アメリカには「国立スパイ博物館」があります。アメリカではスパイは“立派な職業”として扱われており、館内は諜報活動を通じて国を守ったスパイたちの歴史を紹介する、プロパガンダ色の強い6階建ての施設でした。スパイの歴史や戦時中の“英雄”たちの紹介のほか、エニグマ暗号の解読展示はとても興味深いものでした。

世界の歴史的スパイ事件の展示や、“スパイ体験ゲーム”といった参加型アトラクションもあり、拷問体験として宙吊りに挑戦しましたが、私は2秒で手を離して奈落の底に落ち、「死亡」の判定を受けました。

また、世界のスパイ組織の紹介ではモサド、MI6などがありました。日本の「公安」の名前はありませんでした。

ちょうど期間限定の特別展示で、007シリーズの企画展「BOND IN MOTION」が開催されており、とても幸運でした。映画『ゴールドフィンガー』のロールス・ロイス・ファントムIII、『私を愛したスパイ』の潜水できるロータス・エスプリなど、歴代ボンドカーが勢揃いし、実際に使用されたボート・バイク・トウクトウク・ソリまで展示されていて興奮しました。



ジェームスボンド展の実際の雪上モービル



国立国際スパイミュージアム

スミソニアン博物館

スミソニアン学術協会が運営する一連の国立博物館群で、ワシントン中心部には自然史博物館・航空博物館・現代美術館などが集まっています。

●自然史博物館

植物・動物・化石・鉱石など、総数1億2,500万点を超えるコレクションを誇り、自然科学や生物学に興味がある方には子どもから大人まで楽しめる内容でした。イースター島の本物のモアイ像やマンモスの剥製、恐竜の化石の数は圧巻でした。我々理系出身者にはぜひおすすめです。



スミソニアン自然博物館本物のモアイ

●航空博物館

航空機・宇宙船の展示では世界最大級とされ、航空学・宇宙科学、航空機の歴史、NASAで使用された宇宙服、ライト兄弟のライトフライヤー号、リンドバーグの大西洋横断飛行機、月の石、アポロ11号、スタートレック制作資料など幅広い展示がありました。



ライト兄弟のライトフライヤー号

●美術館・肖像画博物館

現代アメリカアートの展示も壮大で、とくに自動車会社の広告を通してアメリカの自動車産業の歴史とアメ車の変遷が学べた点が興味深かったです。肖像画博物館では歴史上の人物が数多く展示され、中でも歴代大統領の肖像エリアでは、ポートレートに添えられたコメントが彼らへの評価として反映されているようでした。トルーマンはそこまで“英雄扱い”でもなく、バイデンとオバマやクリントンはやや評価が低めに感じられました。特朗普は巨大な写真でした。

エノラ・ゲイ

今回、私が最も見ておきたかったのが“エノラ・ゲイ”でした。航空博物館の別館（ダレス空港近く）に大型機の実物展示が移転しており、帰国日の空港の前にガイドさんに立ち寄ってもらいました。建物の大きさは幕張メッセの大ホール以上、国立競技場クラスで驚きました。

館内には約200機の航空機と135の宇宙船が収蔵されており、その中央にエノラ・ゲイが展示されました。展示コメントには就航した歴史のみで、イデオロギー的な記載はありませんでした。しかしエ

ノラ・ゲイも含めて数々の爆撃機の大きさに圧倒され、「戦時中、これほど巨大な機体が飛来したら気づくだらうし驚くだらう恐ろしかっただらう」と実感すると同時に、被災者の思いを少し想像して切なくなりました。

他にもトムキャット、ブラックバードなど歴代の戦闘機が展示され、現役機は機密上ありませんが、ドイツ軍のメッサーシュミット、日本軍の零戦「紫電改」など“敵国機”まで展示されており、収蔵の幅広さを感じました。さらにコンコルドやスペースシャトルも見ることができ、とても貴重な体験でした。



エノラ・ゲイ

ホロコースト記念館

最後に、ワシントンD.C.で最も新しく建てられたホロコースト記念館へ行ったことを紹介します。ナチス・ドイツによるユダヤ人大量虐殺をテーマに、資料・写真・映像・模型・収容所内部の再現展示などを通して、その悲惨さが伝えられていました。ドイ

ツが戦争へ向かった背景、ナチスの台頭、国民の洗脳、組織的虐殺に至るまでの過程が丁寧に展示され、最後には連合軍によるユダヤ人解放の様子が紹介されていました。ヨーロッパのホロコースト関連施設とは異なり、アメリカの視点で構成されているのが印象的でした。

実際にユダヤ人を輸送した貨車の車両内部に入ることもでき、当時の衣類や靴の展示から、収容された人々の体験を疑似的に感じることができました。日本の“シンドラー”といわれる杉原千畝に関する展示もありました。感想としては米国人向けには最後にアメリカは正したんだという正義を鼓舞する内容らしいけど、英語がわからない今まで見ると私は切なさと悲しみしか思えませんでした。

最後に

ワシントンは4日間の滞在でしたが、学会の合間に効率よく観光するには時間配分が重要です。私は「ロコたび」というサイトで現地ガイド（日本人）を手配しました。半日でそこそこの料金はしましたが、空港送迎付きでサービスは非常に良かったです。もしワシントンD.C.を効率よく観光したい方がいらっしゃれば、ご紹介いたしますので私までご一報ください。

次回は「ワシントンの前にNYに寄ってきました2025夏」をご紹介しようと思います。



ガイドの斎藤さん。
普段は日本人向けハイヤーの運転手

ポケットモンスター ACCUM

山口支部 鹿 島 貴 朗

(山口農林水産事務所畜産部)

ネタも枯れつつありますが、今回も鉄道の紹介をしようと思います。福島県福島駅と宮城県楢木駅を結ぶ阿武隈急行線と、栃木県宝積寺駅と烏山駅を結ぶJR烏山線を紹介します。

まず阿武隈急行の特徴は何といってもポケモンとコラボしている路線であることです。ポケモンとコラボした路線といえば岩手県のJR大船渡線「POKÉMON with YOU トレイン」が有名ですが、阿武隈急行も2022年から行っています。ふくしま応援ポケモンのラッキー（たまごポケモン）とみやぎ応援ポケモンのラプラス（のりものポケモン）を前面に推したラッピング車両と駅標名が見られます。

また、鉄道以外にもラプラスをデザインした公園がオープンするなど、様々な所でコラボが見られますので、宮城県や福島県を訪れた際はポケモンを探



2両編成で、宮城県側はラプラスの、
福島県側はラッキーのラッピング車両

してみるのも良いかもしれません。

次にJR烏山線ですが、駅数が8駅であること、宝積寺駅や大金駅と縁起の良い漢字を含む駅が所属している、ということから、各駅に七福神（七福神+集合図で8通り）が割り振られ看板等が設置されています。紹介したい特徴は、JRで唯一の蓄電池で走る車両「ACCUM」です。JR烏山線は、車両は宇都宮駅まで乗り入れており、宇都宮駅～宝積寺駅は電化区間、宝積寺駅から烏山駅までは非電化区間となっています。上記の電化区間と烏山駅構内の架線で充電を行い、非電化区間を充電した電気で走っています。宇都宮駅～宝積寺駅では分かりにくいけれど、折り返し運転に備える烏山駅では、静かな環境のため蓄電池への充電音？を聞くことができ、JR烏山線の見どころの一つではないでしょうか。



お知らせ

今後の主な行事(予定)

- 12月 1 日 ・日本獣医師会学術・教育・研究委員会（東京都）
- 12月 4 日 ・第2回小動物部会委員会（県獣会館）
- 12月 6 日 ・中国地区獣医公衆衛生講習会（松江市）
- 2月 8 日 ・第2回小動物講習会（YMfg維新セミナーパーク）

- 2月16日 ・日本獣医師連盟役員会・総会（東京都）
- 2月19日 ・第2回支部長会議（県獣会館）
- 3月12日 ・第4回理事会（県獣会館）

事務局だより

- 11月 6 日 ・第3回理事会（県獣会館）
- 11月 8 日 ・中国地区産業動物講習会（公開講座）（山口グランドホテル）
- 11月10日 ・山口県動物由来感染症情報関連整備検討会（県庁）
- 11月12日 ・消防立入検査（県獣会館）
- 11月14日 ・会計事務所協議（県獣会館）
- 11月14日 ・全国獣医師会会長会議（東京都）
- 11月15日 ・動物感謝デー 2025（東京都）

- 11月16日 ・第1回小動物講習会（YMfg維新セミナーパーク）
- 11月21日 ・山口県和牛共進会（山口中央家畜市場）
- 11月25日 ・自由民主党山口県支部連合会協議（山口市）
- 11月30日 ・時重初熊先生墓碑掃除供養（周南市）
- 6日 20日 ・事業推進会議

次回編集委員会 12月18日（木）13：30～

山 口 県 獣 医 師 会 会 報 第775号 令和7年12月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)
電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554
e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp
<http://www.yamaguchi-vet.or.jp>

編集責任者 豊 川 剛
発行責任者 中 村 滋
印 刷 コロニー印刷